

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4090800170		
法人名	社会福祉法人 ふくおか福祉サービス協会		
事業所名	ささえ手ホーム綾		
所在地	福岡市東区水谷1丁目30番22号 (電話) 092-674-3330		
自己評価作成日	平成 25 年 10 月 1 日	評価結果確定日	平成 25 年 12 月 3 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

その人らしく、美味しく食べて元気になり、喜怒哀楽も大切にして、安心して生活を送っていただけるよう心掛けています。
普段の生活をとおして、機能回復のためのリハビリのお手伝いができるよう、「できることは、自分で行う。」を念頭に、安全に注意しながら、介護する側、される側ではなく、入居者、スタッフが一緒に協力しながら、生活が行えるようにしております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成 25 年 10 月 22 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は小高い山の中にある閑静な住宅街の一角に位置し、一見すると、事業所とは思えないほど周りの風景に馴染んでいる。建物は3階建てで、2・3階部分がグループホームとなっており、窓からは街の景色が一望できる。夏の花火大会の時は、屋上を地域住民に開放している。管理者は「思いやりがあるスタッフが多い」と話す。事業所としての歴史は浅いが、利用者と職員の関係の良さが垣間見えることから、職員は利用者のことを一番に考え、寄り添う支援をしていることがわかる。

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅰ 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の基本理念、行動指針を職員休憩室に掲示し、日常的に理念を意識して業務が実施できるようにしている。	事業所独自の理念は無いが、職員は法人の理念と行動指針に沿って利用者支援を行っている。理念と指針は入職時の配布、休憩室への掲示にて職員に周知している。	事業所として、地域の中でどのような役割を果たしていくか、地域密着型サービスとして何が大切かを考え、事業所独自の理念を作成し、職員全員で共有することを期待する。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所のスーパーに買い物や公園への散歩途中にご近所の方々と挨拶を交わしたり、周辺の学校の学生、園児と会話し交流を図っている。	今年度は近所の保育園との交流を1回実施し、9月の香椎浜花火大会の時には、地域住民に屋上を開放している。それ以外で、地域活動や事業所主催の行事を通じた地域との交流は無い。 10月から自治会に入っている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居に関する相談・見学以外の相談・見学も随時受け付け、認知症に関する説明も取り入れながら話をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開催した際、事業所の活動報告や状況報告を行い参加していただいた皆様より意見やアドバイスをいただきサービスにつなげるよう努めている。	運営推進会議には、家族・地域包括支援センター職員・自治会長・民生委員が参加し、利用者やサービスの状況、評価への取り組み状況等を報告し、運営についての話し合いを行っている。自治会からは地域に関する様々な情報提供がされており、事業所も活動などを通して交流を深めていく姿勢が見られる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの方に運営推進会議に出席してもらい実情、取り組みを説明している。また、疑問等あれば市の担当者に連絡、確認し連携を図っている。	法人が市から地域包括支援センターを受託しており、事業所に空きがあった場合はすぐに連絡するようにしている。また、運営について疑問等があった場合も市へ電話で相談している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事例が発生した場合内部研修を実施するなどし身体拘束について全員が理解し取り組めるよう努めている。また毎年、研修を実施するようにしている。	玄関は終日施錠されている。部屋の入口は施錠されていないが、ベランダに出る窓は半分開錠可能な施錠がされている。身体拘束に関するマニュアルは入職時に全職員に配布され、毎月のミーティング等でマニュアルを用いた内部研修会を実施している。	外部研修にも参加するなど身体拘束に関する研修を充実し、従事する全職員の意識を高めることを期待する。また、安全面に配慮しつつも施錠が常態化しないように、できる範囲からでも施錠しない時間を設けるなど、対応の見直しや工夫等を行い、自由な暮らしを支える援助の検討を期待する。

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員との面談やケア実施内容を日常的に確認することで状況を把握し虐待の防止に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入職時に研修を実施している。また、内部研修で年1回研修を実施するようにしている。	権利擁護に関する制度について、利用者や家族に説明を行っていない。また、権利擁護に関する制度についての研修も実施できていない。	全職員が制度について理解できるように、権利擁護に関する制度についての研修を実施することが望まれる。また、利用者・家族等に対して契約時や必要に応じて説明することが望まれる。
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、ご本人やご家族に対し説明を行い理解が難しい部分などは繰り返し説明を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時、苦情・相談窓口を説明及び重要事項説明書に記載している。また、意見箱を設置し自由に意見をいただけるよう体制をとっている。	利用者は運営推進会議に参加していないが、職員は日々の関わりの中で思いを汲み取るように努めている。運営推進会議に参加し意見を述べる家族もいるが、年に3回、外出行事に合わせて開催される家族会で、職員は意見や思いを聞くようにしている。その他、意見箱を設置したり、苦情の第三者窓口を繰り返し説明している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議を実施し職員との意見交換を行っている。また、必要時には個人面談を実施し一人一人の思いを確認し運営に反映している。	管理者は月1回の職員ミーティングや日々の業務の中で職員の意見を聞くようにしている。また、個別面談を実施し、発言が少ない職員も意見が言えるように配慮している。職員の意見を基に、記録物を見直して業務効率化を図ったり、12月には建物1階で利用者を楽しんでもらえるよう「やきそばパーティ」を計画している。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年1回法人による意向調査を実施、職員の意見や希望などを把握するようにしている。また、法人が実施する年3回の研修、法人内の他部門が実施する内部研修、外部研修を受講している。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の募集・採用については、特に制限は設けていない。職員の経験や得意分野を活かし働くことでやりがいや自信を持って仕事ができるようにしている。	採用や選考にあたっては、年齢や性別等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、採用後の配置や教育等においても差別することは無い。定年は60歳だが継続雇用もしている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人全体で年1回、人権研修を実施し全職員が受講しているが啓発活動は実施できていない。	職員は、法人全体で5日間に分けて開催される人権研修に参加している。研修内容は外部講師が同和問題等の人権に関する講話となっている。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護福祉士の資格取得のフォロー、認知症介護実践者研修を受講など職員の現状に応じた研修の確保を行い個々のスキルアップに努めている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流をまだ設けられていないのでネットワークづくりや勉強会参加等の機会作りに努めていく。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人、ご家族との面談や入居前の利用サービス機関からも情報収集し環境の変化があっても安心して生活していただけるよう努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に要望や困られていることをうかがい不安を解消し、信頼関係を少しずつ築くよう努めている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の状態、ご本人・ご家族の意向を踏まえサービス計画を作成し、医療との連携を図っている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの状態に合わせ出来る部分は職員と一緒にいき支え合いながら生活できる環境に努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	他科受診などご家族が付き添える部分は可能な限りお願いし、食事はご家族にも声掛けし一緒に外出していただいている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の意向などにより配慮が必要な場合を除き、来訪・面会については特に制限を設けずに受け入れるようにしている。	職員は入居時に利用者の馴染みの人や場について家族から聴取し、関係の継続に努めている。利用者の知り合いが訪ねて来ることあれば、電話で連絡を取り合う利用者もいる。また、職員は利用者と一緒に手紙を書き、馴染みの人との関係を継続させる支援も行っている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者間の関係性に配慮し職員が間に入ったり、入居者同士の歓談は見守る等孤立することのないよう注意を払うよう心掛けている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もご相談があればいつでも連絡をいただけるようお伝えしている。		

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個人の生活リズムに合わせ、時々の要望を把握し対応するよう努めている。また、職員間でも情報共有を図っている。	職員は、日々の関わりや何気ない話の中で、利用者の思いを聞いている。眠れないことや帰宅願望、大声を発することなど普段と違う行動や状態の変化について原因を考え、主治医や家族の意見を参考にしながら思いや意向の把握に努めている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居に至る経緯や以前の環境に配慮しご本人、ご家族の意向を確認しながらサービスに活かすよう努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の中での変化に気付き、状態把握を行い、ご本人が持っている力が発揮できるように努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の希望や意向の確認を行い医師の意見を参考にしている。また、月1回の職員によるケアカンファでは状態確認や課題の抽出を行い介護計画に反映している。	介護計画は6ヶ月毎に見直しを行い、家族に説明し同意を得ている。介護計画作成の際は、月1回のミーティングにおいて集約した職員の意見や情報と本人の意向や状態、家族の要望、職員の気づき、医師の意見等を参考にしして個別的に作成している。	利用者の状態や状況変化がある場合は、6ヶ月毎の見直し期間に限定せず、一人ひとりその時点に沿った個別具体的な計画作成が望まれる。
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に心身の状態の記録を記入し職員全員で把握に努めている。申し送り、職員会議で再度確認を行っている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の意向に出来るだけ添えるよう柔軟なサービスが行えるよう努めている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者の状態に応じ地域のスーパーや散歩に出かけ楽しまれている。電気設備点検時は停電となるため公民館を借り数時間過ごすなどしている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医による週1回の往診で対応、特変時には電話連絡により指示を仰いでいる。また、訪問歯科、訪問皮膚科とも連携し対応している。	かかりつけ医については本人・家族の意向を尊重しており、かかりつけ医の選択は自由である。協力医療機関からの月1回の往診がある。定期受診は基本的に家族が同行している。受診後の結果報告等の情報の伝達方法が決められていない。	事業所及び家族からの情報伝達の方法などを話し合い、適切な医療を受けるため支援が望まれる。
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の看護師に必要に応じ相談を行っている。現在、医療連携体制による訪問介護は利用していない。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は主治医より入院先の医療機関に連絡を行い状況説明をしてもらっている。退院時は、ご家族、医師、病院ソーシャルワーカーと連携を行い退院時期の見極めを行いスムーズな受け入れ体制に努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた方針について、ご本人、ご家族との話し合いが行えていない。	事業所には、重度化した場合の対応にかかる指針及びターミナル期の援助方針があり、明文化されている。家族会において参加した家族には説明を行っている。	重度化や終末期の対応については、事業所の方針を入居者家族に説明し、早期から利用者家族の意向を把握すること、折に触れて気持ちの変化にも対応できるような配慮が望まれる。また、重度化・ターミナル期については、医療を含む関係者が全員で方針を共有して支援に臨むことが期待される。
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応のフローチャート、緊急連絡網の作成、緊急時は管理者へ連絡、必要時はかかりつけ医に連絡、相談を行い指示を仰ぎ対応している。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施することになっている。また、運営推進会議にて、隣人への協力依頼、地区の避難場所や避難経路の把握を行っている。	マニュアルを作成し、毎年2回、消防署の協力を得て各ユニット及び階下の訪問介護事業所と合同で実施している。避難経路の確認、水消火器を使用した訓練を行い、非常用食料、飲料水、シュラフ・毛布等の非常用備品を事業所内に備えている。	運営推進会議等を活用して地域住民に参加を呼びかけて協力体制を築くことや、夜間想定訓練の実施、実践的なマニュアルを整備していくこと等が期待される。
【Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者への声掛け、対応が適切であるか常に意識するよう努めている。対応が難しい方は職員が変わって対応するなどその場の状況に応じたケアを心がけ、排泄、入浴時には特にプライバシーにも配慮したケアに努めている。	利用者のプライバシーについては、排せつ・入浴介助時に極力肌を露出させないようにしており、申し送り等職員間で利用者の情報交換する場合は小声で行っている。入居時に外部からの問い合わせについて家族に確認している。入居者の問い合わせに関しては、管理者または計画担当者につなぎ、不用意にプライバシーが損なわれることがないように配慮されている。	プライバシーに関するマニュアルを作成し、事業所で統一した研修等を行って全職員の意識向上を図ることが望まれる。
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の会話の中で入居者の意向等を引き出すよう心掛けている。また、ご本人に決めていただけるような場面を作り自己決定の機会を設けるよう努めている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ゆっくりした時間の流れの中で一人ひとりのペースで生活できるよう支援している。その中で、散歩やレクリエーション、ドライブ等を状況や状態に合わせて行っている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な訪問理美容を利用、毎朝の身支度はできない部分を支援しその人らしいおしゃれができるよう努めている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食手作りの食事を提供している。メニューは入居者の好みを尋ね考え、食事の準備・後片付けは入居者と職員が一緒に行っている。時々、外食や仕出しのお弁当なども取り入れ楽しんでいただいている。	利用者は時々買い物に行ったり、職員と一緒に準備や片づけなどを行っている。事業所で調理困難なものや希望に添えないものは毎月1回程度の外食で対応している。おやつは散歩のついでに購入したり手作りしている。職員と一緒に食事しながら見守りや話し相手をして和やかに食事を楽しむ支援が行われている。	食事は提供した食事の記録を残しているが、計画的な献立がなく、当日の調理担当職員の技量に任されており、栄養バランス・カロリー摂取量等への配慮が不十分となっている。事業所は改善を予定しており、期待される。

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の嚥下状態、咀嚼状態に配慮した食事形態を考え食事が安全に摂取できるように努めている。水分は好みのものを準備し脱水に配慮している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛け、介助を実施している。状態に応じ訪問歯科の往診を受けている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄は記録に残し一人ひとりの排泄パターンを理解するようにしている。定期的な声掛け、誘導により失敗なく過ごせるよう支援している。	トイレで排泄することを基本に、できるだけ利用者自身のできる力を活用する支援を行っている。トイレへの定時誘導や利用者のそのそわした行動、精神状態を観察して声をかけたり、誘導を行っている。失敗等で汚れた場合は、トイレで手早く着替えたりシャワー浴で清潔にして周囲に気づかれないように配慮している。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便表にて把握している。定期的な排便を促すため適度な運動、水分補給、食事に心掛けている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった入浴の支援をしている	週3回入浴施行し、一人ひとりの状態に応じた入浴支援に努めている。	入浴は毎日準備されているが、利用者は週3回程度の入浴となっている。入浴時間帯の設定はあるが、利用者の状態に合わせた対応も行なわれている。入浴拒否される場合は声をかけを工夫したりタイミングを図るなどして誘導し、利用者が気持ち良く入浴できるように支援を行っている。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	散歩、レクリエーション、適度な運動を行い夜間の安眠につながるよう努めている。体調に合わせて日中の臥床時間を設けるなど状態に応じた対応に努めている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎食毎に薬を準備し服薬支援を行っている。入居者の薬の把握ができるよう薬名、作用、用法等の情報は職員全員で理解できるよう努めている。症状の変化に応じ主治医、薬剤師に相談している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力を活かせるよう得意な部分を役割とし毎日の生活が単調とならないよう支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日や気候に応じて散歩はできるだけ実施している。家族会などで遠出をし家族と一緒に過ごしていただく機会を年3回ほど設けている。	散歩はレクリエーション担当が日常的に実施しており、散策のついでに駅前スーパーで買い物することも利用者の楽しみになっている。ドライブは利用者の要望に応じて、年に5～6回実施され、普段あまり行けないような場所へ出かけている。また、家族も一緒に外出する食事会が年3回程度催されている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人、ご家族の意向により少額を所持されている以外は金銭所持はされていない。必要時は立替金で購入可能としている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者が手紙を書かれ際の支援、ご家族からの電話の取次ぎなどご本人、ご家族の意向に応じ対応している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは自然採光で風通し良く窓の外の景色も気持ちを和ませている。光に敏感な方もありカーテンを活用し落ち着いて過ごせる空間づくりに配慮している。	事業所内は清潔に保たれ、音や採光は利用者が落ち着くように配慮されている。テレビは食事中は食事に集中できるように消されている。テーブルには家族が毎週持参される生花が活けてあり、飾り窓には利用者がドライブで遠出した際に手に入れたものなどを飾っている。各室の表札も個性的である。利用者が落ち着いた雰囲気でも過ごせる空間づくりをしている。	

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間、食堂、居室と好まれる場所で自由に過ごしていただいている。テレビ前のソファではテレビを観ながら気の合った方々が談笑されている光景が見られる。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のレイアウトはご本人、ご家族が入居前に相談され使いやすく、安全な配置を心がけている。使い慣れた家具などを持ち込み居心地の良い空間作りがされている。	居室は筆筒、椅子、衣装ケース、写真、寝具等馴染みの品々が持ち込まれている。衣類の入れ替えは主に家族が行い、日々の掃除や整理整頓は職員が中心になりながら、できるだけ利用者と一緒に行うようにしている。利用者家族の意向をふまえて居室づくりをしており、個性が感じられる居住空間になっている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアには手すりの設置、トイレ・浴室は手すりに加え呼出ボタンを設置、玄関にはテレビ付きインターホンを設置し安全の確保に努めている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
Ⅴ サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)		①ほぼ全ての利用者の
			○	②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)		①毎日ある
				②数日に1回程度ある
			○	③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
			○	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
Ⅴ サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)		①ほぼ全ての家族と
				②家族の2／3くらいと
			○	③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
			○	③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		①大いに増えている
				②少しずつ増えている
			○	③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)		①ほぼ全ての職員が
			○	②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての家族等が
			○	②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅰ 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の基本理念、行動指針を職員休憩室に掲示し、日常的に理念を意識して業務が実施できるようにしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所のスーパーに買い物や公園への散歩途中にご近所の方々と挨拶を交わしたり、周辺の学校の学生と、園児と会話し交流を図っている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居に関する相談・見学以外の相談・見学も随時受け付け、認知症に関する説明も取り入れながら話をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開催した際、事業所の活動報告や状況説明を行い参加していただいた皆様より意見やアドバイスをいただきサービスにつなげるよう努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの方に運営推進会議に出席してもらい実情、取り組みを説明している。また、疑問などあれば市の担当者に連絡、確認し連携を図っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事例が発生した場合内部研修を実施するなどし身体拘束について全員が理解し取り組めるよう努めている。また毎年、研修を実施するよう努めている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員との面接やケア実施内容を日常的に確認することで状況を把握し虐待の防止に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入職時に研修を実施している。また、内部研修で年1回研修を実施するようにしている。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、ご本人やご家族に対し説明を行い理解が難しい部分などは繰り返し説明を行っている		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時、苦情・相談窓口を説明及び重要事項説明書に記載している。また、意見箱を設置し自由にご意見をいただけるよう体制をとっている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議を実施し職員との意見交換を行っている。また、必要時には個人面談を実施し一人ひとりの思いを確認し運営に反映している。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年1回法人による意向調査を実施、職員の意見や希望などを把握するようにしている。また、法人が実施する年3回の研修、法人内の他部門が実施する内部研修、外部研修を受講している。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の募集・採用については、特に制限は設けていない。職員の経験や得意分野を活かし働くことでやりがいや自信を持って仕事ができるようにしている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人全体で年1回、人権研修を実施し全職員がじゅこうしているが啓発活動は実施できていない。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護福祉士の資格取得のフォロー、認知症介護実践者研修の受講など職員の現状に応じた研修の確保を行い個々のスキルアップに努めている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流をまだ設けられていないのでネットワークづくり、勉強会参加に努めている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人、ご家族との面談や入居前の利用サービス機関から情報収集し環境の変化あっても安心して生活していただけるよう努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に要望や困られていることをうかがい不安を解消し、信頼関係を少しずつ築くよう努めている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」ま ず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた 対応に努めている	ご本人の状態、ご本人・ご家族の意向を踏ま えサービス計画を作成し、医療との連携を 図っている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを 共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの状態に合わせ出来る部分は職員 と一緒にいき支え合いながら生活できる環境 に努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家 族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築い ている	他科受診などご家族が付き添える部分は可能 な限りお願いし、食事はご家族にも声掛け し一緒に外出していただいている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係 が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の意向などにより配慮が必要な場合を 除き、来訪・面会については特に制限を設け ずに受け入れるようにしている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用 者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の関係性に配慮し職員が間に入ったり、 入居者同士の歓談は見守る等孤立するこ とのないよう注意を払うようにしている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を 大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォロー し、相談や支援に努めている	契約終了後もご相談があればいつでも連絡を いただけるようお伝えしている。		

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個人の生活リズムに合わせ、時々要望を把握し対応しよう努めている。また、職員間でも情報共有を図っている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居に至る経緯や以前の環境に配慮しご本人、ご家族の意向を確認しながらサービスに活かすよう努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の中での変化に気付、状態把握を行い、ご本人が持っている力が発揮できるように努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の希望の意向の確認を行い医師の意見を参考にしている。また、月1回の職員によるケアカンファでは状態確認や課題の抽出を行い介護計画に反映している。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に心身の状態を記録を記入し職員全員で把握に努めている。申し送り、職員会議で再確認を行っている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の意向に出来るだけ添えるよう柔軟なサービスが行えるよう努めている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者の状態に応じ地域のスーパーや散歩に出かけ楽しまれている。電気設備点検時は停電となるため公民館を借り数時間過ごすなどしている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医による週1回の往診で対応、特変時には電話連絡により指示を仰いでいる。また、訪問歯科、訪問皮膚科とも連携し対応している。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の看護師に必要に応じ相談を行っている。現在、医療連携体制による訪問介護は行っていない。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は主治医より入院先の医療機関に連絡を行い状況説明をしてもらっている。退院時は、ご家族、医師、病院ソーシャルワーカーと連携を行い退院時の見極めを行いスムーズな受け入れ態勢に努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた方針について、ご本人、ご家族との話し合いが行えていない。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応のフローチャート、緊急時連絡網の作成、緊急時は管理者へ連絡、必要時はかかりつけ医に連絡、相談を行い指示を仰ぎ対応している。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施することになっている。 また、運営推進会議にて、隣人への協力依頼、地区の避難場所や避難経路の把握を行っている。		
【Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者への声掛け、対応ができていなければならない意識を常に意識している。対応が難しい方には職員が変わって対応するなどその場の状況に応じたケアを心がけ、排泄、入浴時には特にプライバシーに配慮したケアに努めている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の会話の中で入居者の意向などを引き出すよう心掛けている。また、ご本人に決めていただけるような場面を作り自己決定の機会を設けるよう努めている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ゆっくりとした時間の流れの中で一人ひとりのペースで生活できるよう支援している。その中で、散歩やレクリエーション、ドライブ等を状況や状態に合わせて行っている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な訪問理美容を利用、毎朝の身支度はできない部分を支援しその人らしいおしゃれができるよう努めている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食手作りの食事を提供している。メニューは入居者の好みを尋ね考え、食事の準備、後片付けはこれまでの経験を活かしていただき入居者と職員が行っている。外食なども取り入れ変化をつけ楽しんでいただいている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の嚥下状態、咀嚼状態を把握しながら安全な食事の提供を心がけている。水分は好みの物を準備し適温での提供を行っている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声掛け、介助を実施している。状態に応じ訪問歯科の往診を受けている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄は記録し一人ひとりの排泄パターンを理解するようにしている。また尿意、便意を大切に本人の間隔にも配慮し対応している。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便表を活用している。定期的な排便を促すため適度な運動、水分補給、食事に心掛けている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった入浴の支援をしている	週3回入浴施行し、一人ひとりの状態に応じた入浴支援に努めている。また、男性職員の介助が難しい方には女性職員が対応するなど配慮している。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	散歩、レクリエーション、適度な運動、日光浴など夜間の安眠につながるような活動に努めている。日中は自由に居室に戻り休息されている方もおられる。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎食毎に薬を準備し服薬支援を行っている。入居者の薬の把握ができるよう薬名、作用、用法などの情報は職員全員で理解できるように努めている。症状の変化に応じ主治医、薬剤師に相談している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力を活かせるよう得意なことを役割とし毎日の生活の中で「役にたっている」と感じていただけるよう支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日や気候に応じ散歩はできるだけ実施し、入浴がない日はドライブで気分転換していただいている。また、家族会では家族と一緒に外出の企画を立て楽しんでいただけるよう支援している。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人、ご家族の希望があれば少額を所持されている以外は金銭所持はされていない。必用時は立替金で購入可能としている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者が手紙を書かれる際の支援、ご家族からの電話の取次ぎなどご本人、ご家族の意向に応じ対応している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは自然採光で風通し良く窓の外の景色も気持ちを和ませている。光や音に敏感な方もおられカーテンの活用、物音に配慮し落ち着いた空間づくりに努めている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間、食堂、居室と好まれる場所で自由に生活され、テレビ前のソファではテレビを観ながら気の合った方々が談笑されている光景が見られる。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のレイアウトはご本人、ご家族が入居前に相談され使いやすく、安全な配置にも心掛けている。使い慣れた家具など持ち込まれ居心地良い空間づくりがされている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアには手すりの設置、トイレ・浴室は手すりに加え呼出ボタンを設置、玄関にはテレビ付きインターホンを設置し安全の確保に努めている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
Ⅴ サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)		①ほぼ全ての利用者の
			○	②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)		①毎日ある
				②数日に1回程度ある
			○	③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
			○	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
Ⅴ サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)		①ほぼ全ての家族と
				②家族の2／3くらいと
			○	③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
			○	③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		①大いに増えている
				②少しずつ増えている
			○	③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)		①ほぼ全ての職員が
			○	②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての家族等が
			○	②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない